ELV Newsletter
Vol. 66
2014.9.1
jaera Japan ELV Recycler's Association

日本ELVリサイクル機構 ニュースレター　（ELV Newsletter）
《編集・発行責任者》日本ELVリサイクル機構　広報部会長　永田 則男
一般社団法人 日本ELVリサイクル機構　〒105－0004　東京都港区新橋3丁目2－2　一美ビル5F
Tel:03－3519－5181　Fax:03－3597－5171　メール：jaera-homepage@elv.or.jp　URL: http:www.elv.or.jp/

産構審・中環審合同会議が開催

河村代表理事、委員として参加

去る8月21日、産業構造審議会産業技術環境分科会廃棄物・リサイクル小委員会自動車リサイクルWG・中央環境審議会循環型社会部会自動車リサイクル専門委員会第32回合同会議が、東京都港区虎ノ門神谷町の会議室にて開催されました。この合同会議は、座長の永田勝也早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科教授をはじめとする委員28名で構成されており、当日は25名の出席がありました。ELV機構からは河村二四夫代表理事が委員として参加しました。今回の合同会議は主に各事務局から、業界団体の状況、取り組み状況等といった報告が中心に行われました。

最初に経済産業省自動車課から、自動車リサイクル法の施行状況について報告がありました。自動車メーカー等による再資源化の実施状況、自動車リサイクル法の事業者登録・許可の状況のほか、リサイクル料金の預託、管理、払渡し状況などが報告されました。自動車再資源化協力機構からは、被災車両に関する自動車メーカー等の取組みとして、被災車両エアバッグ類の引取基準の緩和などについて説明があり、続けて、日本自動車工業会より「環境負荷物質削減に関する自主取組み」の進捗状況、日本自動車輸入組合からは「輸入車の環境負荷物質の対応状況について」といった自主取組みに関する報告がありました。

自動車リサイクル制度の施行状況の評価・検討に関しては、鉛蓄電池再資源化協会から「自動車用バッテリー・リサイクルシステムの運用状況について」、日本保安炎筒工業会からは「廃発炎筒処理システム実績報告」がありました。

（次ページに続く）→

用語解説

「産業構造審議会産業技術環境分科会廃棄物・リサイクル小委員会自動車リサイクルWG・中央環境審議会循環型社会部会自動車リサイクル専門委員会第32回合同会議 」とは？

→ 経済産業省担当の産業構造審議会（＝産構審）と環境省担当の中央環境審議会（＝中環審）が合同で開催し、自動車リサイクル法の施行状況などについて報告・議論を行う会議。

目次

巻頭言 …… 1
トピックス1
産構審・中環審合同会議 …… 1～2
トピックス2
自動車リサイクル部品の規格策定に関する研究会 …… 2
ELV機構活動ニュース …… 3～4
会員活動ニュース …… 5
鉄スクラップ最新情報 …… 6
行事予定・お知らせ …… 7
編集後記 …… 7

巻頭言

先日の朝、いつものように郵便受けに新聞を取りに行くと、契約をしていない全国版の新聞があった。おそらく配達の方が間違って別の新聞をおいて行ったのだろう。自宅では地元の地方新聞を何十年も読んでいる。全国のニュースはテレビやネットでかなり知ることができる。ただ地元の地域ニュースとなると、やっぱり新聞が頼りだ。自分の身の回りで起きている喜怒哀楽は、自分の生活とも重なって興味深い。出張などで他県へお邪魔し、朝刊を読む機会があるときには必ずそこの地元紙を読ませていただく。心温まる記事などに出会うと見知らぬ土地もそうではなくなるから不思議だ。

（広報部会 副部会長 田村 幸男）

業界として興味深いところでは、日本自動車工業会から「次世代自動車における適正処理、再資源化の取組み状況」と題して、①次世代自動車普及見通しとELV発生台数、②ニッケル水素電池、リチウムイオン電池の対応について、③燃料電池車（FCV）への対応についての報告がありました。

また、自動車リサイクル法については、今後、自動車リサイクル法の施行状況や課題についての検討がスケジュールに沿って行われます。現在の自動車リサイクル制度に関して、①自動車リサイクルを取り巻く周辺状況、②法目的の達成状況、③自動車リサイクルシステムの運用状況、④自動車リサイクルシステムの高度化・効率化について報告されました。

最後に以前より課題としてあった「中古車と使用済自動車の取扱いの明確化」についての報告と「使用済自動車の循環的な利用の高度化」として、リユース部品の利用促進、発炎筒、タイヤ、鉛蓄電池の収集・処理体制、自動車リサイクルの高度化などの報告がなされました。

続けて「自動車リサイクル制度の安定的な運用」と題して、不適正処理対策の推進、不法投棄対策支援スキームの改善、指定法人業務及びシュレッダーダスト再資源化体制についての報告があり、「中長期的な変化に対する自動車リサイクル制度の対応」については環境配慮設計の推進、次世代自動車を含む新規技術への対応といった内容に対する課題、検討事項が挙げられました。

規格策定に関する研究会、全5回の開催が終了

自動車補修用リサイクル部品の利用を促進するための規格策定の方向性を検討

経済産業省自動車課において平成26年1月14日より7月15日に渡り、5回の研究会が開催されました。

開催の趣旨として、使用済自動車の再資源化等に関する法律（自動車リサイクル法）にあるように「使用済自動車に係る廃棄物の減量並びに再生資源及び再生部品の十分な利用等を通じて、使用済自動車に係る廃棄物の適正な処理及び資源の有効な利用の確保を図る」ことが謳われ、自動車ユーザーの責務として「自動車の修理に当たって使用済自動車からの再生部品等を使用することにより、使用済自動車の再資源化等を促進するよう努める。」こと、さらに解体業者の再資源化実施義務等では、「使用済自動車から有用な部品を分離して部品その他製品の一部として利用することが出来る状態にすること。」を求め、リサイクル部品の活用促進を目指している背景があります。しかしながら、一般ユーザーや整備工場の中には、リサイクル部品をどの様に使ったらいいか、部品の特定が出来ない等の不明瞭な点があり、リサイクル部品の積極的な活用に繋がっていない現状があります。

今回の規格策定は、自動車補修用リサイクル部品の利活用拡大に向けて、ユーザーが安心してリサイクル部品を使用できるように、適切な情報の提供・品質確認・安全安心の確保等について、有識者・業界関係者・消費者代表が構成され話し合いがなされました。研究会では大枠がまとめられ、課題も明確になりました。

今後はさらに細かく規格作りを進めていく為の会が持たれます。ELV機構には、経済産業省から規格策定の為の協力依頼もきており、それに応じました。自動車補修用リサイクル部品の環境が整備されることにより、利用選択の機会が拡大し、市場の成長が期待されています。

▼本会に関する詳細は、経済産業省のホームページをご覧ください。
http://www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/seisan/recycle_car/report_001.html

貴金属類の共同出荷事業、実施概要が決定

ELV機構は、平成23～25年度の3年度にわたる環境省からの受託事業「自動車リサイクル連携高度化事業（＝回収高度化事業）」の実績を活かして、平成26年度よりELV機構独自の共同出荷事業として「貴金属類の共同出荷事業」を全国で実施することとなりました。概要は以下のとおりです。（詳細は別途ご案内予定）

会員の皆様には、対象物品の回収にご協力をお願いいたします。

■回収期間（予定）

平成26年9月中旬～11月中旬頃まで

■重量測定のお願い

各回収物品の重量（kg単位で小数点第1位まで）を測定し、ご報告ください。

■回収対象物品

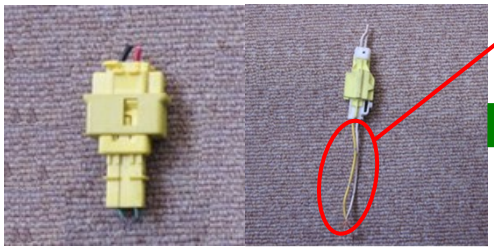
＊EG/CP ＝ エンジンコンピューター
＊AB/CP ＝ エアバッグコンピューター

1．コンピューター基板

回収のポイント

★ 二次分別をして基板だけの状態にする。
★ 種類ごとの分類は行わない。
→ EG/CP基板もAB/CP基板も分類せずに混ぜてまとめて回収する。

2．エアバッグカプラー



回収のポイント

★ ワイヤーは極力短くカットする。
★「オスだけ」「メスだけ」でもOK。
★ 1台からできる限り回収する。
→ 運転席・助手席以外のABからも回収OK。

3．センサー類（O2センサー・AFセンサー）

回収のポイント

★ ワイヤーは極力短くカットする 。
★ 原則として1台からO2センサーとAFセンサー両方を回収する。
→ 片方しかない場合、片方のみ回収する。

環境省公募事業、採択決定し2地域で実施

ELV機構は、環境省が公募していた「平成26年度低炭素型3R技術・システム実証事業」に応募し、採択が決定しました。本事業は、関東ブロックと中国・四国ブロック（中国地区のみ）で実施されます。しかし、実施対象は2地域ですが、全国でアンケート調査を行う予定ですので、ご協力をお願いいたします。

≪事業概要≫

1．事業名	「平成26年度低炭素型3R技術・システム実証事業」
2．事業目的	使用済自動車由来の廃プラスチックの回収システムの構築 → 天然資源が代替されることに伴うエネルギー使用量の削減などを図る。
3．実施対象	①関東ブロック／②中国・四国ブロック（中国地区のみ）
4．回収対象	バンパーや内装材など

九州ブロック、自動車リサイクル士制度認定講習会を開催

平成26年度 九州ブロック 自動車リサイクル士制度認定講習会を8月22日・23日に開催しました。22日は福岡地方に竜巻注意報や大雨洪水警報が出て交通機関が乱れ、30分遅れで10時30分から講習会開始となりました。

まず、九州経済産業局 資源エネルギー環境部 リサイクル推進課 課長 森永 峰次 様からご挨拶いただき、「自動車リサイクル法の中で、今会場にいらっしゃっている受講者の方々は重要な役割を担っています。2日間の講習は大変だと思いますが、頑張ってください」といったお言葉をいただきました。その後、講習が始まり、「自動車リサイクル制度の概要」では、同課の課長補佐 濱 博文 様に講師を務めていただきました。

受講者数は、管理士32名／実務士上級8名／実務士初級7名で、全47名となりました。そのうち、ELV機構の会員ではない方（会員外）は21名で、全体の約45%を占めました。また、行政からの参加者は10名で、その他オブザーバーの方々を合わせると、受講者を含めた参加者総数は67名となりました。

今回、会員外からも多くの受講があったこと、「自動車リサイクル制度の概要」という法律に関する項目以外はすべて九州ブロック内で講師を担ったこと、これらは来年の開催にも繋がる大きな一歩だと思います。 また、講習会の翌週は、ご挨拶や講師を務めてくださった九州経済産業局に直接お礼に伺い、その他オブザーバーとしてご参加くださった行政の方々にもお電話でお礼を伝えました。そこで、行政の方からは「講習会で初めてわかったことも多く、大変参考になった」といったご感想や「わざわざお礼をいただき、ありがとうございます」といったお声もいただき、身近な地元行政の方々とのつながりの重要性をあらためて実感しました。ブロック長の役割として、講習会に限らず、日頃から地元行政とのコミュニケーションを心掛け、つながりを深められるよう努力していきたいと思いました。

（九州ブロック長　伊地知　志郎）

本年度初のブロック長会議を開催

8月26日に第1回ブロック長会議を開催させていただきました。新年度に入って初めてのブロック長会議でした。会議冒頭は、経済産業省の小林課長補佐に部品に関する規格化のお話をいただき、活発な意見交換を行いました。その後、本部活動報告として、産構審・中環審合同会議への参加などさまざまな活動について報告があり、ブロック長と部会長・委員長で情報を共有し、意見交換を行いました。

私は、本年度の最重要課題として、地域団体とブロックの活性化を挙げさせていただきました。定期的な会議の開催により、ブロック内の活性化と地域の声を届けることの重要性を確認させていただきました。

（ブロック長会議長　平地　健）

ブロック会議報告

「中国・四国ブロック会議」

■**開催日**
平成26年8月4日（月）

■**場所**
RCC文化センター（広島県）

■**出席者**
16名（うち、広島県や呉市などからご来賓4名）

■**内容**
各県の近況報告やELV機構本部からの報告の他、ブロック活動費の見積もりや役員の選任など、今後のブロックでの活動にかかわる事案について検討が行われました。

全国の事業所で「リサイクル祭り」が開催

「第4回 会宝リサイくるまつり」

★ 開催地 ： 会宝産業（石川県）
近藤 典彦 社長

★ 開催日 ： 8月3日（日）

★ 参加者 ： 4,443人

当日は、縁日コーナーやくるま解体ショー、エアバッグ処理の実演などが行われました。近藤社長は「地域の方に知っていただき、今後も環境啓発に取り組みたい」とのことでした。

「第4回 自動車リサイクルまつり」

★ 開催地 ： 久保田オートパーツ （宮崎県）
久保田 泰規 社長

★ 開催日 ： 8月3日（日）

★ 参加者 ： 673人

当日は、ニブラを使った実演やおもちゃを持ちよって交換するかえっこバザールなどが行われました。久保田社長は「地域社会との共生をテーマに今後も継続していく」とのことでした。

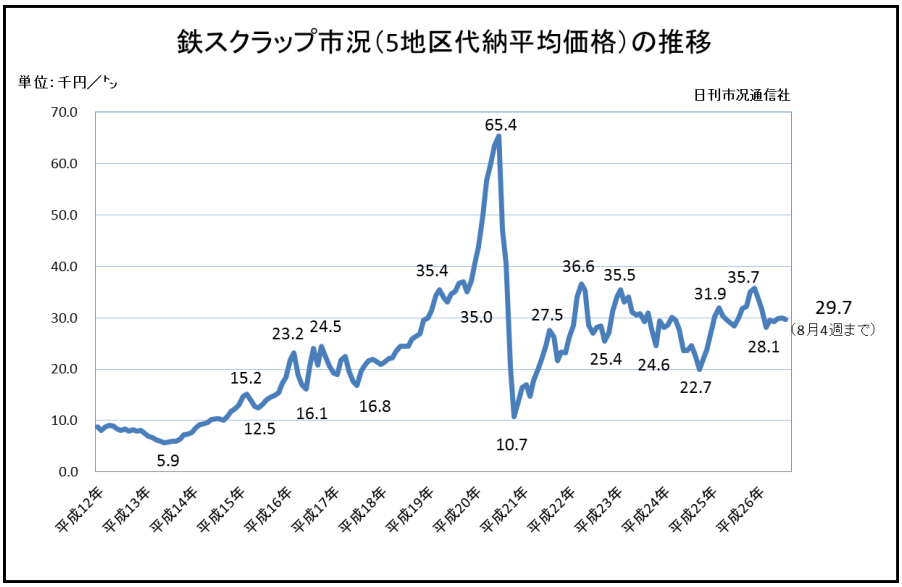
鉄スクラップ最新情報

■ 8月第5週（26日）の鉄スクラップ動向 ■

［ 提供／日刊市況通信社 ］

国内市場、関東・大阪市場上伸で底入れ —— 輸出市場に先高観も

国内鉄スクラップ市場は、全国的に様子見商状となっているものの、関東や大阪で値上げの動きが見られ、底入れ感を強めている。関東地区では、船送りが活発なことから浜値が電炉買値に先行して上伸。これを受けて、電炉各社の建値や実勢買値などの値上げが散発、ジリ高に推移している。関東電炉の間では、市中業者筋が休みを取る旧盆中にスポット手当てが見られたほか、旧盆明け後も実勢買値や建値を引き上げて入荷を促す動きが広がった。こうした値上げの動きは関東市場に限られていた。船送り向けと電炉向けに市中玉の流通分散が見られ、結果「品薄感」が台頭したためだ。しかし先週末からは、9月の生産増を見据え、玉確保の動きが大阪市場で見られ、値上げ改定の動きとなった。



全国的には概ね様子見横ばいの推移が続き、上伸しているのは現時点で関東と大阪のみだが、韓国向けの米国玉輸出価格が上伸したことや為替相場が円安に振れていることなどから、日本玉の輸出市場に先高観が見られる。韓国ミルは今のところ日本玉の高値契約に難色を示しているが、関東鉄源テンダー（12日）が高値（H2平均3万3625円）で落札されたことも「『先高観』を映した動き」（シッパー筋）と見られている。

【関東地区】「品薄感」あり電炉買値ジリ高の推移

8月26日の国内スクラップ炉前実勢価格

		H2	気配
関東	北関東	32,000 ～ 33,000	ジリ高
	南関東	32,000 ～ 33,000	ジリ高
名古屋		31,500 ～ 33,000	強含み横ばい
関西	大阪	32,000 ～ 33,500	ジリ高
	姫路	31,500 ～ 32,000	ジリ高

関東地区の市況は、「品薄感」があり電炉筋の値上げが散発するジリ高の推移が続いている。引き続き浜値が先行する格好となっており、電炉各社は徐々に購入価格を引き上げながら入荷を促す動きだ。ただ、東京製鉄宇都宮の製鋼・圧延停止が続き、同工場が購入価格を据え置いているため、関東相場の値上げの勢いは鈍い。H2炉前実勢価格は32,000～32,500円中心、高値33,000円見当。H2浜値は32,500円中心、高値33,000円見当。

【東海地区】様子見圏内で月末も市中に期待感ムード台頭

名古屋地区では、需給双方に目立った動きが見られないため、なお様子見圏内で月末に向かう公算だ。地区電炉間には炉休筋が見られ、これに伴う荷受け休止があるため、需給関係に引締まり感は見えてこない。しかし発生薄から業者ヤードの入荷は全般に低調で在庫薄にあることと、東西両地区電炉の一部に値上げが見られることで、来月に向けての期待感も台頭している。H2炉前実勢価格は31,500～32,500円中心、高値33,000円見当。

【関西地区】入荷はバラつき気味、強基調の展開

大阪地区の市況は強含みだ。23日からの一部の値上げ改定に追随し、26日から大阪製鉄堺・恩加島工場が一律500円の値上げを実施した。大阪府内での地域間の足並みは揃っていないが、共同輸出船積みを控え、価格対応の遅れは入荷減に繋がりやすい状況だけに、9月に向け強基調の展開が続きそうだ。H2炉前実勢価格は32,000～33,000円、一部高値33,500円。姫路地区のH2炉前実勢価格は31,500～32,000円。

（※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、8月26日午前時点のもの）

行事予定

■9月の主な予定

9月3日（水）
- 9月期 未来政策部会
- 未来政策部会講演会

9月6日（土）
- 自動車リサイクル士制度認定講習会
  インストラクター向けリハーサル研修会
  （近畿ブロック・中国四国ブロック　合同開催）

9月11日（木）
- 第3回 三役会
- 北海道ブロック　自動車リサイクル士制度認定講習会（1日目）

9月12日（金）
- 北海道ブロック　自動車リサイクル士制度認定講習会（2日目）

9月13日（土）
- 九州ブロック会議

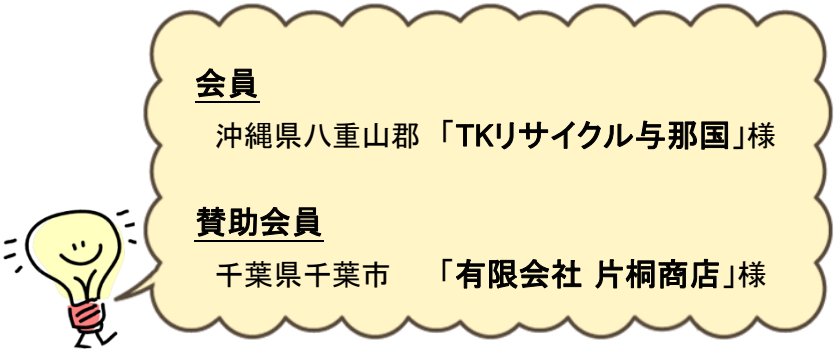
9月18日（木）
- 第6回 広報部会

お知らせ

■会員数（2014年8月現在）

総数　686社 ／ 会員　658社、賛助会員　28社

■新規ご入会者のご紹介（2014年8月ご入会）



会員

沖縄県八重山郡　「**TKリサイクル与那国**」様

賛助会員

千葉県千葉市　「**有限会社 片桐商店**」様

■自動車リサイクル士合格実績（2014年8月現在）

資格の種類	平成25年度	平成26年度
自動車リサイクル実務士初級（引取・フロン類回収工程）	4名	4名
自動車リサイクル実務士上級（引取・フロン類回収・解体・破砕工程）	15名	8名
自動車リサイクル管理士	626名	39名

編集後記

広島の大規模土砂災害は尋常ではない被害を地域住民にもたらしています。テレビに映しだされる被災地の映像を観る都度に心が痛みます。▲東北人である私の脳裏には三年前のあの厭わしい震災の記憶が思い出されます。容赦のない自然の仕業に、恐れ、愁い、困惑したあの時と同じ思いをされていると思うと、決して人ごととは思えないのです。被災された皆様には心よりお見舞いを申し上げるとともに、一日も早い復興を願うばかりです。▲さて一面でもお伝えしましたが、産構審・中環審合同会議が去る8月21日に行われました。会場は委員をはじめ多くの聴講者で埋まりました。適度な緊張感の中、会議はスタートしたわけですが、それにしてもボリュームのある分厚い資料を、駆け足ながらも時間内に要領よく報告して行く様は見事なものです。▲質問事項も的確なもので、鋭いジャブを矢継ぎ早に放ってきます。まさに手に汗握る、この自動車リサイクル業界は、関連団体との緊張感のある相制関係により成り立っていることを改めて感じた次第です。

（広報部会　部会長　永田　則男）